

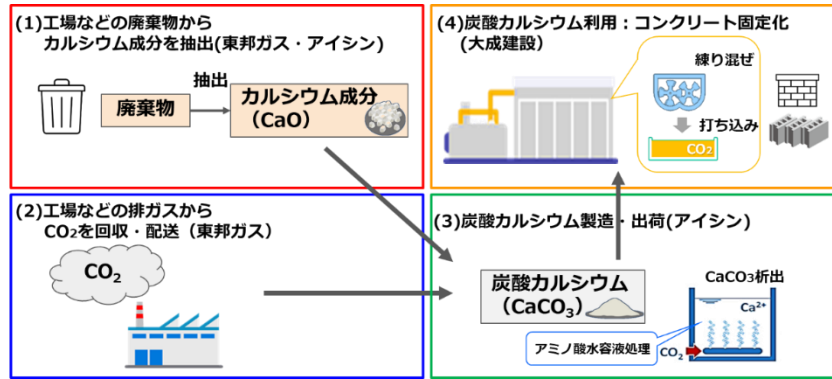
地方公共団体名	愛知県
所属部局 担当者名	環境局地球温暖化対策課活動支援グループ 主査 富田 洋平
地域の抱える 課題	<p>【環境・脱炭素に関する課題】</p> <p>愛知県の製造品出荷額等(2021年)は約48兆円で45年連続日本一である一方、温室効果ガス総排出量が約7,000万t-CO₂と全国トップクラス</p> <p>【同時解決したい地域の課題】</p> <p>新たな技術や民間ビジネスの力を活用して従来の延長線上にはない革新的なイノベーション、ブレークスルーを引き起こし、エネルギーや産業構造の変革につなげることで、環境と経済の好循環を生み出す。</p> <p>【キーワード】</p> <p>環境と経済の好循環、イノベーション、ブレークスルー、民間アイデアの事業化、脱炭素プロジェクト、水素社会の構築、低炭素水素サプライチェーン</p>
地域のありたい 未来	新たな技術や民間ビジネスの力を活用した、革新的で独創的な愛知発の脱炭素プロジェクトの創出
事業の概要	<p>○脱炭素プロジェクトの創出・支援</p> <p>2021年6月から、全国の民間企業・団体を対象にカーボンニュートラルに資する事業・企画アイデアの募集を開始している。提案されたアイデアの中から、事業化すべきプロジェクトを、学識者からなる「あいちカーボンニュートラル戦略会議」で選定し、事業化の支援を実施している。</p> <p>これまでに4つの企画アイデアを選定し、事業</p>

化に向けて取組が進められている。

(参照 URL①：カーボンニュートラルの事業・企画アイデア募集)
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/carbonneutralidea.html>

(参照 URL②：カーボンリサイクルプロジェクト)

※ 2023 年 12 月に開催した同会議で選定されたプロジェクトの例
<https://www.pref.aichi.jp/press-release/aichi-cn-3.html>



○水素社会の構築

・中部圏（岐阜県・愛知県・三重県）の取組

2022 年 2 月に中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議を地元自治体や経済団体等により設立し、水素・アンモニアの社会実装に向けた取組を中部圏が一体となって推進している。



2023 年 3 月には、中部圏水素・アンモニアサプライチェーンビジョンを策定し、地域一体となった、水素とアンモニアのサプライチェーン構築や需要創出・利活用促進等の具体的な取組を進めている。



(参照 URL：中部圏水素・アンモニアサプライチェーンビジョン)
<https://www.pref.aichi.jp/press-release/suiso-fcv/chubu-vision.html>

・低炭素水素サプライチェーンの構築

2018年4月に、全国に先駆けて、製造・輸送・利用に伴うCO₂の排出が少ない水素を「低炭素水素」として認証・情報発信する「低炭素水素認証制度」を制定し、これまでに9件のプロジェクトを認定している。

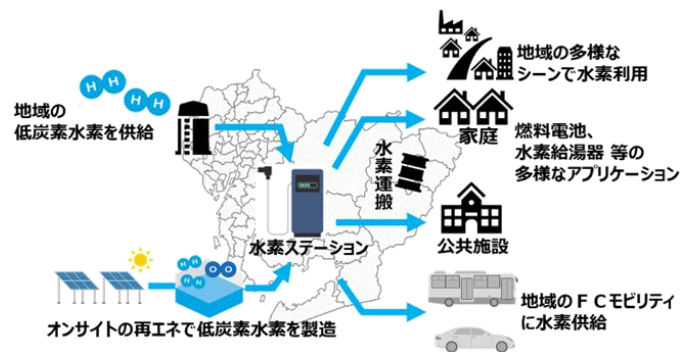
2023年4月からは、認証制度の対象範囲を県内から中部圏に拡大し、中部圏で低炭素水素サプライチェーンの構築を促進している。



ロゴマーク

○低炭素水素モデルタウン事業の実施

水素ステーションを拠点にして【モビリティ+その他のアプリケーション】など幅広い利用先へ、再エネ水素を低コストに供給し、水素供給拠点として水素ステーションが社会実装するモデルを構築する。



企業に求めたい内容

- ・愛知県の地域資源を活用した脱炭素プロジェクトのアイデア
- ・低炭素水素サプライチェーンの構築に資する、水素の製造、運搬、利活用等に関する事業
- ・低炭素水素の供給低コスト化や街中における利用拡大、水素ステーションの社会実装に関する

	事業
--	----